

# 会 議 記 録 書

件 名	平成30年度 第9回さむかわ次世代経営者研究会
日 時	平成30年12月7日 17:30～19:15
場 所	寒川町役場 災害対策本部室
出席者	別紙出席者名簿のとおり
議事録	<p>1. 開会 各社企業概要も含めた自己紹介</p> <p>2. 中小企業基盤整備機構の中小企業支援策について 独立行政法人 中小企業基盤整備機構 関東本部 本部長 占部治氏</p> <p>(1) 前段 スマホをお持ちですかとの問いかけから 「今日、部下が会社を辞める」、「社畜ミュージアム」について検索。 これは中小企業基盤整備機構が上司や経営者が気付いていない会社の現状を把握してもらうために製作。 多くの経営者や上司が時代の流れについていっておらず、今後何にするにもICTの時代が来るため、事業承継などをするうえでも時代遅れになっていることを把握してもらいたい。 金融機関などはガラケーの利用率が多いが、それではやはり遅れている。</p> <p>(2) 自己紹介 ・高島中小企業診断士とは40年来の知人。 ・都市再生機構（UR）工業団地部署→中小企業大学校講師（関西校） →中小企業庁→JETRO(バンコク)出向→中小企業基盤整備機構 近畿本部 →北陸本部→関東本部長  ・占部本部長の実家は広島で3代続く機織りで、主に軍服やジーパンなど厚手で丈夫な生地製作をしていたが、簡単な部類に入るため海外へ生産拠点が移る。 そのため、プリーツ加工会社へ移行し4年ほど前に黒字廃業をした。  ・今までの経験から、他業種であっても経営者の多くは孤独であるため、次世代経営者研究会のような同じ境遇の人が近くにいることが大切。 ・海外へ行くと、日本の繊細でナイーブなところが弱点になってしまう。 現状だと日本は世界に置き去りにされてしまうし、海外の若い経営者からは見向きもされない国になっている。</p> <p>(3) 中小企業基盤整備機構で特に重要と位置付け、支援している内容について ①インキュベーションについて ・日本が世界に取り残されないためにも、次世代産業の成長支援に力をいれている。 ・特にメディカル分野で医薬品を除く医療機器が向いていると感じる。 人間の体とロボット等がうまく融合できるものを作りこめそうなのが日本であると思う。 それ以外では体力低下を止めるためのヘルスビジネス等、日本がある意味最先端を行く超高齢化社会をどう捉えビジネスにするか。</p>

例) にいがた産業創造機構 (NICO)

東大卒 28 歳女性が発表したアームロボットにとても可能性を感じる。  
実用化に向けアメリカのシリコンバレーで資金集めをした。  
別紙参照。

- ・世界の動向は EV 社会になっている。  
今から日本が乗り込むのは大変だと思うが、EV 化が進めば事故が起こることもないので今のような頑丈な車が必要なくなる  
⇒素材の変化は必須で軽量化が見込まれるため、日本が得意とするプラモデルなどを活かしていけるのではないだろうか

②事業承継について

- ・西日本豪雨の災害にもみられたが、災害が起きると廃業が一気に増える。  
日本の企業の多くが BCP を策定しておらず、対策がないため高齢化も進み事業継続に至らない。
- ・BCP で何度もプランニングをし、多岐面で考える必要がある。

(4) 地の利の良さについて

- ・同じようなインターがある他市の状況を分析する必要がある。  
鶴ヶ島は PR が上手くなく、全て川越に取られてしまっている。  
折角の立地の良さをどう生かすかは行政次第である。
- ・交通網が変わることにより周囲がどう変化するのかが敏感であるべき
- ・特に 10 年後、20 年後も雇用を生み出せる企業は大切なので、  
インキュベーションを卒業していく企業などに目を向け、感性をどう  
研ぎ澄ますかが課題

(5) 社内・会社は今後どうしていけばよいか

①全分野において ICT を意識していく

- ・日本の遅れを理解する
- ・5 年後には現在の紙伝票はなくなるので、それに向け取り組みが必要
- ・先手を打ち活用している人を見つけ、参考にしていく

②世の中の国際化を意識する

- ・中小企業基盤整備機構で J-GoodTech の支援をしているが、登録すれば英語の HP が出来上がる。
- ・日本は取引時に相手の様子や状況を見るが、世界は単価と納品期間があれば簡単に注文をする
- ・単発であっても技術力を PR 出来る機会でもあるのでぜひ取り組んでもらいたい

(6) 社長として何を考え取り組むのか

- ・段取り、始末、覚悟することの 3 つ
- ・一番大切なのは段取りで、感性を磨きながら取り組むことでロスが減る

3. 占部関東本部長との意見交換

Q. 経営者の覚悟とはいったいどのようなものか。

A. 多くの経営者の成功例があると思うが、信念を持ち努力し続けるから成功している。

ただ、「失敗してもくじけない」ではなく次に挑戦するための認識力・

体力（金銭面含む）を考慮し努力すること。  
「夢」と「覚悟」は異なるので、その部分を認識することだと思う。

Q. 災害時の計画とあるが、人・モノ・カネの担保はどのように確保するのか。

A. モノについては同時災害が起きる可能性の低い取引先等へ1カ月分のストックをさせてもらうことにより材料調達が可能。

次に資産においては保険にて対応。

最後の人に関する部分は従業員の命を確保する以外他ならないため、行政との協力が必要であるが、常日頃からそれぞれの災害を想定して危険の少ないほうへ避難するなどの誘導が必要。

（避難先や方向を誤るだけで、助かる命も助からなくなる。）

◎重要なのはBCPを練る際に何度もシミュレーションをし、多くの面で想定しながら作成すること

Q. 今後確実に人手不足となるが、どのように確保すべきか。

A. 日本は以前にも人手不足を経験（1986～7年頃）し、その際は世界をリードするロボット主要国となった。

国では外国人労働者の法案などを立案しているが、実際労働者確保に貢献できるのは数年であると思う。

今後、少子高齢化がさらに進み人口が減るのは確実であるので人材確保への努力ではなく、ITを活用し人手の省力化を図り、「人」が行う必要のある仕事へ回すことだと思う。

#### 【研究会の様子】

